

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 17/Oct/2022/vol.705



千日紅・センニチコウ Globe amaranth (福島県産 徳島県産) 【あしらい・飾り】

熱帯アメリカ原産といわれている「千日紅」は、日本では「千日も紅を保つ」ということから名前が付けられたというほど、丈夫で長い間人の目を楽しませる毎年夏から秋にかけてみられることの多い花です。凛とした佇まいと可愛い色合い、その色の部分は花ではなく「苞」といわれる葉が変化したという部分で、鮮やかで退色せずに長く残るので、最近人気のハーバリウムやドライフラワー、秋から冬にかけてのリースづくりには欠かせない花となっています。そして近年様々な色味が出回ってきたことから花屋の店先を飾り、フラワーアレンジメントにもよく使われ、最近では千日紅だけで作られる装花や生花の花束なども人気の様です。茎を短くカットすると、赤やマゼンタの色の花はコロンとしていてベリーの様にも赤く色づく秋の果実にも見え、秋の趣きにもピッタリなあしらいとなります。カトラリーに添えたり、プレートの縁においても目を楽しませます。名前から一昔前のイメージを彷彿とさせる「千日紅」も、今や人気の定番花として花壇を彩るだけではなく、洋花として認識されるようになってきました。ヨーロッパでも千日紅はドライにして飾られたり、中国では昔、女性がかんざしに使っていたといわれています。陽の光が暮れるのが少しずつ早くなってゆく秋のひと時に、灯る鮮やかな色の花はこれからの心躍る季節までも照らしているようです。